

家族の防災会議

家族防災会議を開きましょう

- 1** 家族それぞれの
避難場所を
決めておく。

- 3** 火の始末。
(担当を決めておく。)



- 2** 落ち合う場所を
決めておく。

- 4** 非常持ち出し品の
分担を決めておく。

災害は、家族がそろっているときに発生するとは限りません。家族がバラバラにいるときに起きる可能性もあります。

別々の場所で災害にあったときに、それぞれが自分の命を自分で守り、必ず会おうと話していますか？

災害から身を守るために、家族全員で防災について話し合いましょう。

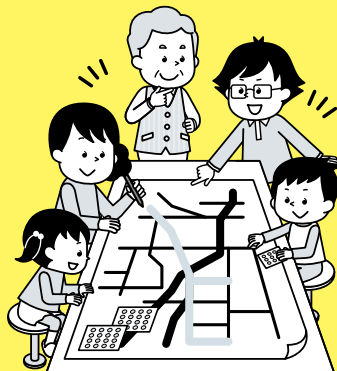
1. 一人ひとりの役割分担を決めましょう

- 火の元担当、非常持出担当などを決めておきましょう。非常時だけの担当ではなく日常生活の中で、就寝前の火の元確認、非常備蓄品の確認を習慣づけましょう。
- お年寄りや乳幼児がいる家庭では、誰が誰を助けるか決めておきましょう。また、家族単位でなく、ご近所の協力が得られるとさらに安心です。



2. 災害時の連絡方法や避難場所を確認しましょう

- あらかじめ、災害時にどの親戚や知人等に連絡をするか、また、どの連絡方法を利用するかを家族みんなで決めておきましょう。
- 最寄りの避難場所を確認し、そこまでの経路に危険な箇所がないか、実際に現地を歩いて確かめましょう。



3. 家の危険個所をチェックしましょう

- 家の内外に危険個所がないかどうかをチェックしましょう。
- 危ない場所は、修理や補強について話し合しましょう。
- 家の耐震性について、調べてみましょう。



4. 非常持出品・非常備蓄品をチェックしましょう

- 家族構成を考えながら、必要なものがそろっているか確認しましょう。
- 定期的に保存状態や使用期限を点検し、必要なら交換しましょう。



5. 消火器・救急箱をチェックしましょう

- 消火器がどこにあるのか、知っていますか？
- 使い方についても、みんなで確認しておきましょう。
- 救急箱の中身を確認しましょう。必要なものはそろっていますか。また、包帯や三角巾などを手にとって、使い方を練習してみましょ。



6. 隣近所で声をかけ合いましょう

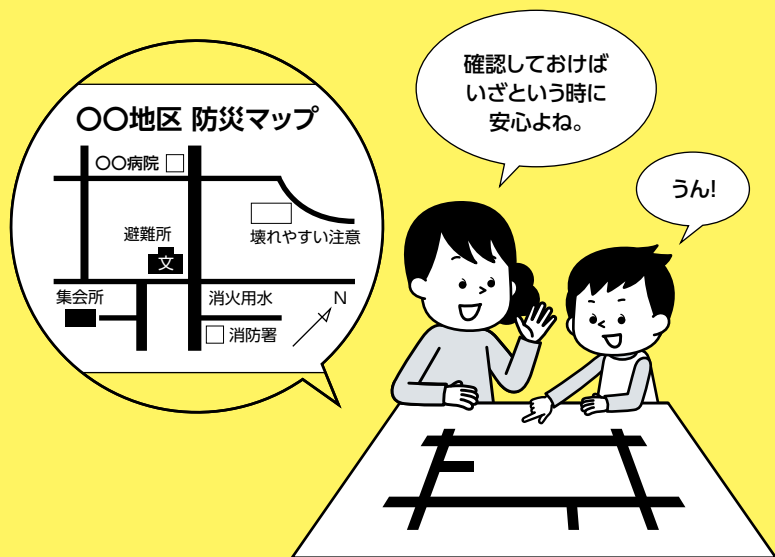
- 災害の情報を入手したとき、避難情報が発表されたときは、隣近所でお互いに声をかけ合っていざというときに備えましょう。



わが家の防災マップをつくろう

家の付近を実際に歩いてみて、危険な場所や避難所・避難場所（小・中学校、公園など）と避難経路を確認します。避難経路は1つではなく、通行できない場合に備えて複数決めておきましょう。それらをイラストなどで簡単にあらわした「わが家の防災マップ」を作成しましょう。

※お近くの避難所がわからない場合は、宇美町の土砂災害ハザードマップかホームページで確認していただくか、町役場にお問い合わせください。

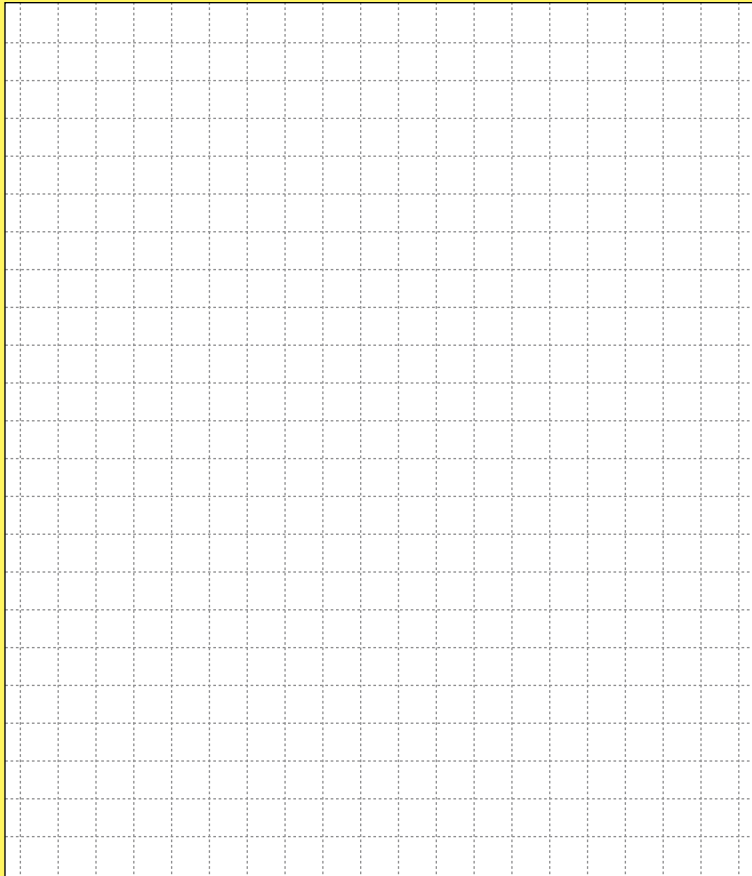




わが家の防災マップ

【記載しておきたいこと】

家族の集合場所・避難所・避難経路・地震や台風のときに危険になりそうな場所



家族の安否を確認する

災害が発生したとき、最初に心配になるのは家族の安否です。災害時には携帯電話などの回線がつながりにくくなるので、安否の確認には電話会社が提供する「災害用伝言ダイヤル」「災害用伝言板」などの専用サービスを利用しましょう。公衆電話、携帯電話のメールなどを組み合わせれば連絡が取れる確率は高まります。



電話会社が災害時に提供するサービス

音声による確認方法

①災害用伝言ダイヤル「171」で声を残す

NTTが震度6弱以上の地震発生時などに提供する。被災地の人々が自宅の固定電話の番号をキーにして安否情報を音声で登録、これを全国から確認することができる。音声ガイダンスに従って操作する。



電話で確認

171

災害用伝言ダイヤル



録音編

「171」をダイヤル

録音は「1」を入力
(暗証番号を利用した
録音は「3」です)被災地の方の「固定電話」の
番号を入力続けて「1#」を入力
(ダイヤル式の方はそのまま
お待ちください。)

メッセージを録音

「9#」で終了



確認編

「171」をダイヤル

再生は「2」を入力
(暗証番号を利用した
再生は「4」です)被災地の方の「固定電話」の
番号を入力「1#」で再生開始
(ダイヤル式の方はそのまま
お待ちください。)

伝言の再生

繰り返し再生は「8#」
次の伝言の再生は「9#」再生後のメッセージの
録音は「3#」